



おごおり

第401号

日本郵趣協会 小郡支部

第33巻 第8号 2023. 8. 1

年賀状

分銅銘あり

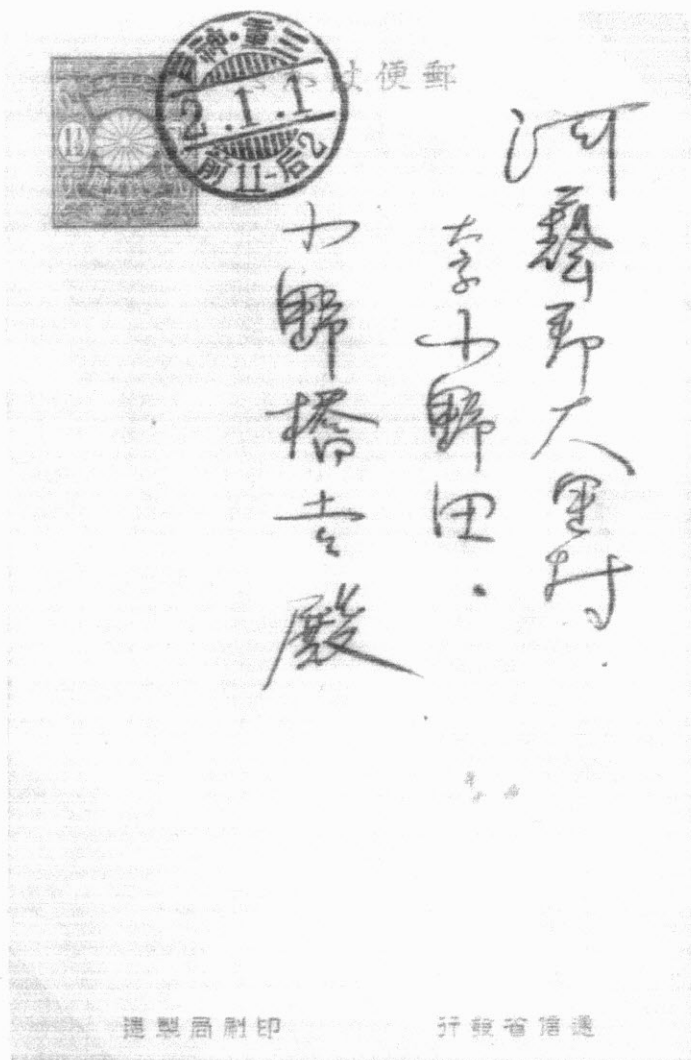
大正2年

謹
賀
大正二年

早連帯挨拶之節、お礼あり
尚、お礼を頂戴致し、御
返事、お願ひ申上り

一月之上

河森邦人里村
渡辺庄之助



年賀郵便 大正時代

中嶋克巳

明治45年7月30日明治天皇崩御により大正と改元され、大正2年の年賀は国を挙げての自粛となりましたが稀に平年並みの賀状もありますし遠慮しながら賀詞を述べたはがきは多数残っています。

大正3年は、分銅銘ありはがきに楡型印多く、満・奉天消しや、桜4銭連合はがきのアメリカあて楡型印、菊3銭赤切手貼りと田沢型3銭貼り年賀書状に楡型印。更に、菊2切手銭貼り（低料金）封。

大正4年 分銅銘ありはがきに楡型印が多く、朝鮮型楡型印あり、田沢型1銭+5厘の2枚貼り私葉と軍事郵便葉書。

大正5年 分銅銘ありはがきに楡型印と朝鮮型楡型印、分銅（青）銘ありはがきに楡型印と朝鮮型楡型印および田沢型1銭5厘貼り。樺太の丸二型印と大正大礼記念切手1銭5厘切手に楡型印。

大正6年 分銅（青）銘ありはがきに楡型印。田沢型大正毛紙1・5銭貼り台湾型印消しと関東州型機械消印の2種。

大正7年 分銅（青）銘ありはがきに楡型印と初めて使用された機械年賀印の平川式元祖印に林式印。および青島野戦局印の軍事郵便。

大正8年 分銅（青）銘ありはがきに楡型印と同はがきの支那字入りに天津欧文印消し

大正9年 分銅（青）銘ありはがきに林式の押印2。大正毛紙1・5銭貼りL1型機械印消し2。同分銅はがきに樺太型楡型印と青島消し軍事郵便葉書。

大正10年 田沢型2銭貼り（低料金）年賀状に楡型印に分銅（青）銘ありはがきに楡型印と朝鮮型印。また、分銅支那字入りはがきに支那長沙の欧文印消し。

大正11年 分銅（青）銘ありはがきに楡型印に朝鮮型機械印。分銅銘ありはがき支那字入りに上海欧文印消しと青島楡型印。

大正12年 分銅（青）銘ありはがきに朝鮮型楡型印と同機械印。同一はがきに満州・奉天機械印。

大正13年 分銅（青）銘ありはがきに機械印に、震災はかき1・5銭貼り楡型印。

大正14年 分銅（青）銘ありはかきに楡型印と機械印。震災はがきに楡型印に機械印。

大正15年 田沢型1・5銭）貼りに機械印。分銅銘ありはがきに長崎欧文機械印消し。

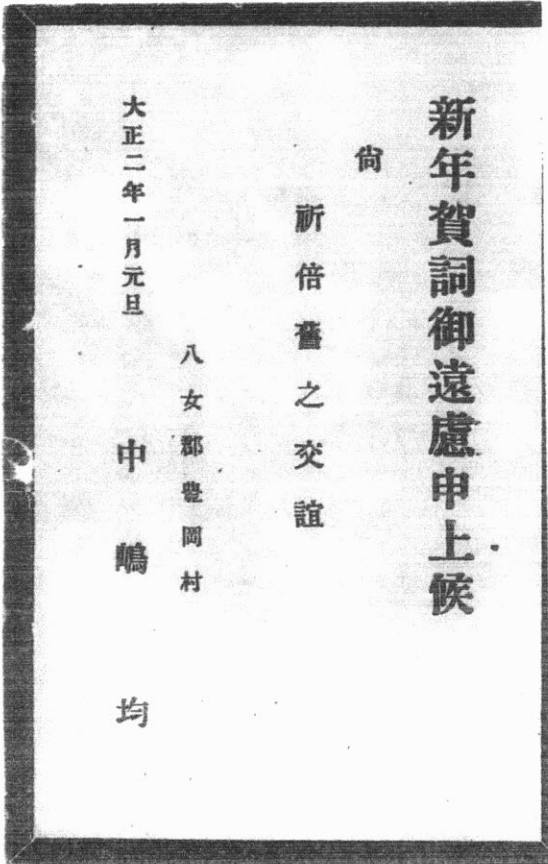
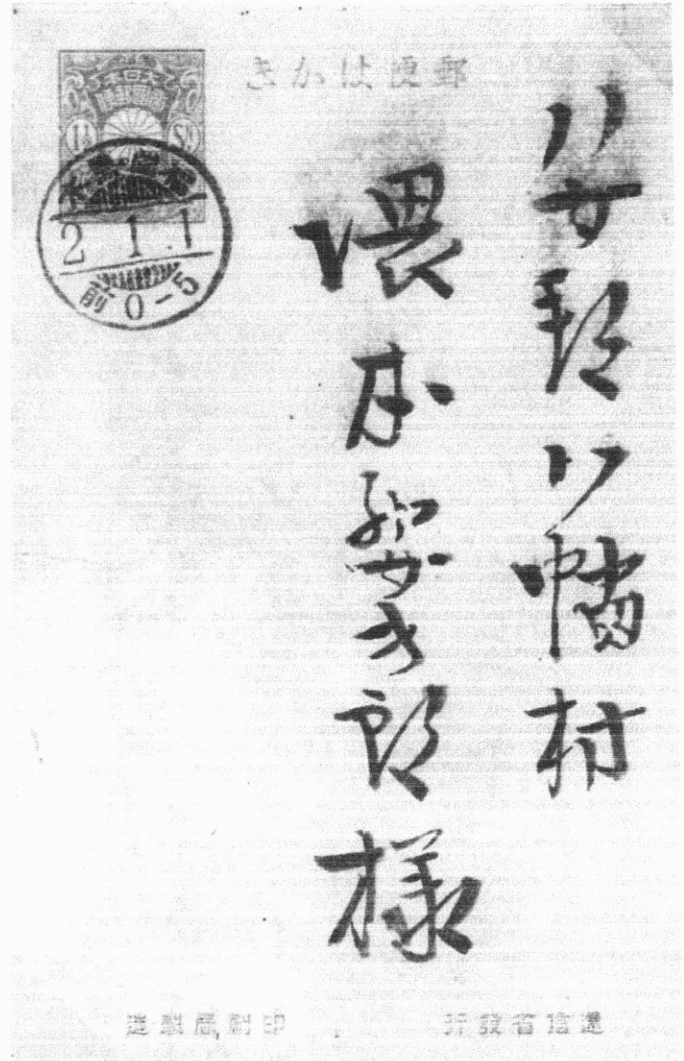
同一はがきに満・遼陽消し。大正16年 大正は15年で終わりだが、16・1・1の機械印がありコレクションに加えた。

大正天皇は大正15年12月25日崩御により昭和に改元されたが、25日以前に差し出したはがきにはすでに16年の印字がされていたと思われる。

賀詞御遠慮

明治天皇崩禦により国を挙げて喪に服し、賀状を遠慮した。

大正2年



年賀状

大正2年

涼閣中存新年の賀詞
御遠慮申上儀を貴店に
萬福を祈り保せ候日
御眷顧を冀上候發
大正二年元旦

久留米市字板川町一丁目

志まやたび本店

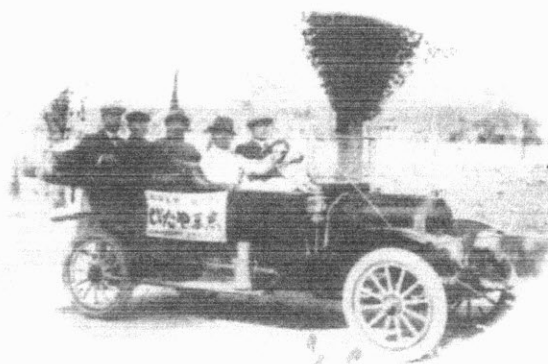
店主 石橋徳次郎

大喪中、年賀禮省

只竊に、之御多幸祈

尚玉妻之御發願願

大正二年一月元旦



菊3銭（暗い赤紫）貼り 久留米2、1、1消し

年 賀 状

分銅はかき

大正 2 年



郵便便紙

山形縣 豊津郡
豊東村
遠藤 分造 様

諒閣中改曆之賀詞

御遠慮申上候

大正二年一月元旦

安東縣 江岸

新 谷 音 助

送附部印

行發審理處

滿・安東縣消し

年 賀 状

分銅はかき

大正 3 年



きかは便郵

北原 松一 兄

佐賀外佐賀郡物産

お大守為重二三〇

消印

行銀省信選



きかは便郵

小野橋 吉 祝

一乃那高倉尾村

妻山清松

沼津郡大里村

字小野田

消印局刷

行銀省信選

楯型印消し

大正 3 年

年 賀 状

大 正 3 年

大正2年は、前年12月明治天皇崩御により喪に服し自肅となつたがすでに差し出された物はそのまま取扱っている。したがつて、大正の年賀の始まりは大正3年からであつた。

御即位大禮古圖

昔の儀式と、大正の御禮との相違は、われ人の察しにくくすべし等かと思はれます。



大正最初のめでたき新年を迎へましてまことに喜びに堪へませぬ。ことに謹みて御祝ひを申し述べます。

大正三年

一月一日

東京市赤坂區

靈町七十七番地

外 島 潤



誤植のため下部に訂正印
青山3・1・1